

市民  
396人の  
ホンネ

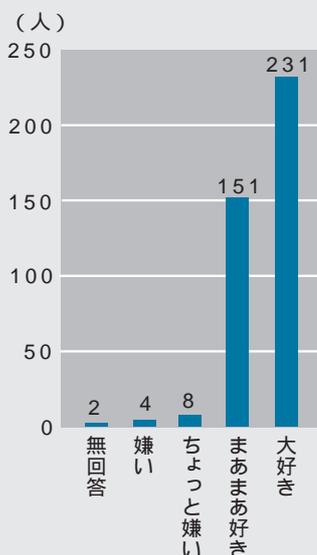
## あなたの横浜市民度チェック

# ご近所づきあい していますか？

「核家族」や「地域の喪失」など、人と人との関わりが希薄になったと言われているが、実際はどのようなだろう？  
確かに結びつきの形は、昔と変わってきたような気もするが、「かかわり合って生きていく」ことを、人々は本当に必要としなくなってしまったのだろうか。  
横浜市民396人に、自分と地域との関係について、また、市民として自分の住む横浜市をどう思っているのか、答えてもらった。



2005年11月15日から、2006年1月4日まで、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」(<http://www.kanaloco.jp/>)でアンケートを実施。回答者数は396人。内訳は、男性262人、女性134人。既婚者293人、未婚者103人で、既婚者のうち、「子どもなし」の回答が64人。年齢は、60歳以上が115人、50歳代52人、40歳代86人、30歳代87人、20歳代45人、10歳代8人、10歳以下3人となっている。



好きな理由としては、「海が身近にあり、街と自然が調和していて歴史的建造物も数多いから」20歳代、男性、学生、未婚、保土ヶ谷区」という意見に代表されるように、街の歴史やイメージにステータスを感じているという意見がほとんどだった。

「大好き」の世代別では20歳代の62.2%を筆頭に30歳代、40歳代がいずれも60%を超え、若い世代ほど好き程度が高いことが明らかになった。また、男性の53.8%に対して女性は67.1%と「横浜大好き」という人が多い。

### Question

1 横浜が好きですか？

横浜市民は「横浜」が好き！  
街の持つイメージが気に入っている

気になる傾向としては年代が進むほど好き度が低下すること。特に「ちよつと嫌い」、「嫌い」と答えた12人のうち7人が60歳以上の人が占めている。理由も、「税金が高い」60歳以上、女性、主婦瀬谷区」という意見のように一転して具体的になる。

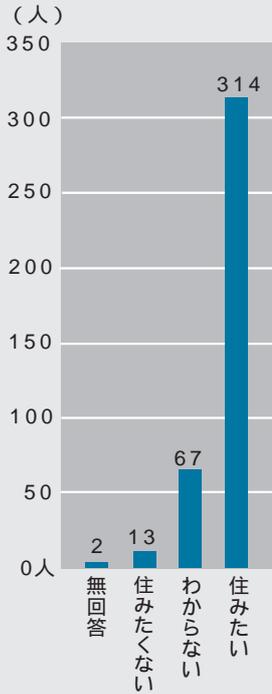


- 好きな理由
- ・国際都市だから
  - ・異国情緒あふれているから
  - ・はまっ子だから
  - ・田舎だから
  - ・住みやすいから
  - ・など

横浜にずっと住みたいという意見が圧倒的  
理由は「暮らしやすさ」が1番

Question

2 横浜にずっと  
住みたいですか？



「ずっと住みたい」が79.3%と圧倒的に多かった。理由としてはQ1と同様の意見に加え、「医療・福祉施設が充実し、アクセスが容易だから」(20歳代、男性、学生、未婚、神奈川区)というように「暮らしやすさ」をあげる人が多かった。男女間で大きな差はなく30歳代(75.8%)40歳代(74.4%)がやや低いものの世代間での差も少なかった。「東京も近くて便利な上、憩いの場がたくさんあるなど魅力的な街で誇りと郷土愛を持てる」(20歳代、男性、学生、未婚、保土ヶ谷区)などの意見に、横浜市民としての自負がつかえる。



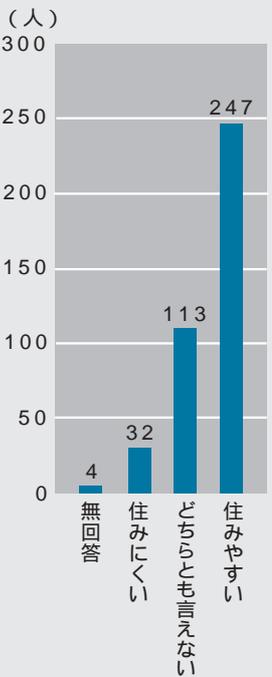
とを否定する意見は少なかった。「住みたくない」と回答した意見の中には、「近隣市町村に比べ福祉施設が劣っている」(20歳代、男性、学生、未婚、青葉区)という意見や「道路が悪い」(60歳以上、女性、既婚者、瀬谷区)という意見があった。

- 住みたい理由
- ・落ち着きがある
  - ・好きだから
  - ・海が見えるので
  - ・わからない理由
  - ・もっと住んでみたい土地がある など

横浜が住みやすい理由は  
都市としての利便性+恵まれた自然環境

Question

3 あなたの住んでいる  
地域の住み心地は？



「住みやすい」という回答が62.3%男性(64.1%)が女性(58.9%)をやや上回っている。住みやすい理由としては「便利さ」と「自然と都会の適度な調和」をあげた人が多かった。一方、「近所で声をかけ合える雰囲気がある」(40歳代、女性、パート、既婚、旭区)、「自治会活動が活発」(60歳以上、女性、主婦、都築区)など、住民間の人間関係の良さを強調する意見もあった。世代間での大きな差はないが、30歳代女性の突出した少なさが目立った。「住みやすい」という回答は43.5%に止まり、「どちらともいえない」、「住みにくい」が半数以上を占めた。特にその理由として、「夜道が怖い」、「空き巣や変質者が増えた」など、「治安」の問題を指摘する意見が多いのが



「住みにくい」と答えた人は8.1%であったが、理由として、高齢者に優しいくない。交通政策に疑問あり(60歳以上、男性、無職、既婚、栄区)、「ここ何年かで急速に人口が増えた感じがあり、それに伴い街が汚くなった気がする」(30歳代、女性、未婚、会社員、西区)などの意見があった。

- 住みやすい理由
- ・静かで環境が良い
  - ・景色が良い
  - ・生活しやすい
  - ・住みにくい理由
  - ・高齢者に優しくない。交通政策に疑問あり など

街中総出で盆踊りやお祭り…も今は昔  
地域の催しはなぜか人気薄

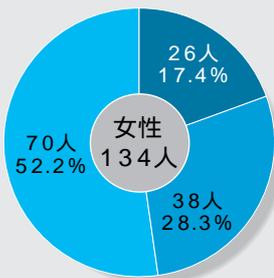
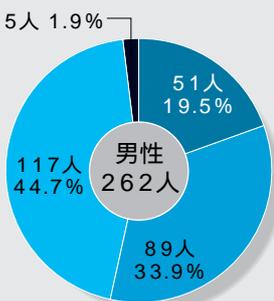
Question

4

地域の催し  
(盆踊り、体育祭、文化祭などに)  
積極的に参加しますか？

「よく参加する」は19.4%の77人と少数派。ある程度予想された結果とはいえその少なさには考えさせられるものがある。女性の参加率が男性を下回っているのも意外な結果だ。

年代が若いほど参加率は下がり、10〜20歳代で見ると男性が36人中1人、女性が17人中0人と、地域の催しによく参加する人は「いないに等しい」という結果になった。また、未婚・既婚での比較も、未婚者の場合男女合わせで103人中2人に止まった。このデータからも、地域の催しには一定の年代に達した人が近所との関係や子どもに引張られてくるうじて参加している姿がうかがえる。



■ よく参加する  
■ どちらとも言えない  
■ あまり参加しない  
■ 無回答



については、「参加している」、「参加したい」という答えがかなりあることから、この結果だけで「地域への関心が低い人が多い」という結論は出せない。個々のライフスタイルや意識の変化を論議するだけでなく、むしろこれらの催しのあり方や内容に目を向ける必要があるのではないだろうか。

「テレビ」に「ゴロ寝」の休日は卒業  
積極的に地域に進出し始めたお父さん

Question

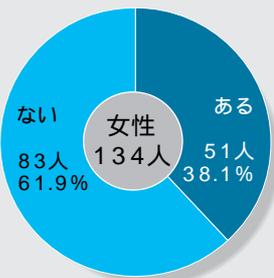
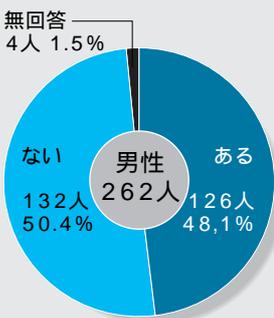
5

仕事や学業以外に地域で参加していること  
(ボランティア、サークルなど)がありますか？

「参加している」と答えた人は177人(44.7%)だった。この数字を見て「意外に多い」と感じた人がほとんどではないだろうか。また女性(38.1%)よりも男性(48.1%)の方が多いのも意外な結果だ。

年代別に見ると男性の60歳以上が69.8%と突出して多くなっている。「父親不在」などと家庭や地域で肩身の狭い思いをしてきたお父さんたちが、「会社人間」から解放される年代を迎える頃から、より良いセカンドステージを求めて続々と地域に進出し始めていることを示しているようだ。

一方女性を見ると、60歳以上が59.0%と男性ほどではないが最も多く、次いで40歳代の47.0%が続いている。既婚・未婚の別で見ると、既婚者の



51.1%に対し未婚者は26.2%と約半分。やはり地域とのかかわりにおいては家庭や子どもたちの存在が大きな役割を果たしているようだ。

極端に少ない世代のない男性に比べ、10〜20歳代の若い女性の参加率が11.7%と際だって少ないのが気になるところだ。



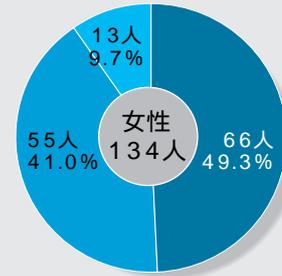
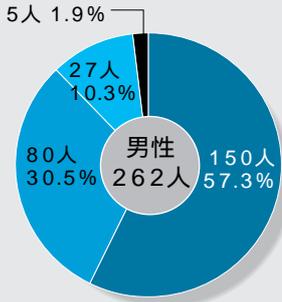
みんなが何かを求めている！  
地域での活動参加に対する欲求は強い

Question

6 (ボランティア、サークルなどに)  
これから参加したいですか？

「団塊の世代の二斉リタイア」が話題だ。長年日本を支えて来た人たちがドツと第2の人生のスタートを切る。そのパワーを社会にいかすための模索があたりこちらで始まっている…。そんなニエースがメディアを賑わせているが、今回のアンケートもそれを裏付ける結果となった。

「参加したい」は54.5%と半数を超えた。特に50歳代、60歳以上では男女合わせて7割近い数字となった。はつきり「参加したくない」と答えた人は10.1%に止まり、社会参加に対する意識と意欲は高いことがうかがえる。ただし、男性が40歳代から数値が上がり始めるのに対し、女性の40歳代は32.3%と極端に低くなっている。50歳代には72.7%と全体で最も高い数値



■ したい  
■ わからない  
■ したくない  
■ 無回答



に跳ね上がるのを見ても、「子育てが女性の社会参加に大きな影響を与えていることが推測できる。しかし、前問Q5の結果が示すようにすでに「地域でボランティアやサークルに参加している」と答えた女性は、60歳代に次いで40歳代が47.0%と多い。この相反する数字については、さらなる分析が必要なようだ。

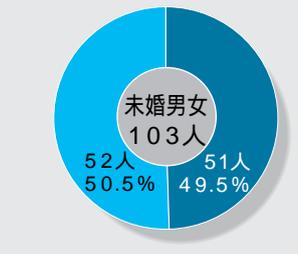
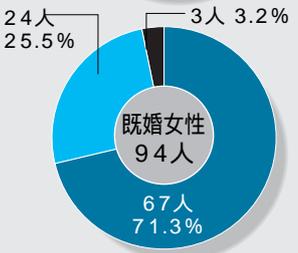
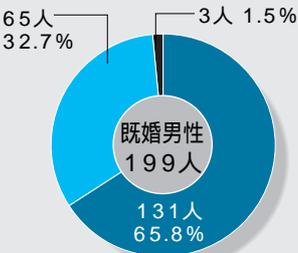
友だちは「いない」「それとも「いらない」？  
地域と「関わらない派」もいる…

Question

7 地域に「友だち、仲間」と呼べる人がいますか？

「地域に友だち、仲間はある」と答えた人は62.9%とかなり高い数値が出た。女性の64.8%が男性の61.8%をやや上回る。世代別では、男女とも50歳代、60歳以上が70%を超えているが、その地域に長く住んでいることを考慮すれば当然の結果だ。他の世代は50%台でほぼ同様の数値だが、40歳代の男性が唯一半数を切った。その世代で「いない」と答えた人の職業を見ると圧倒的に会社員が多い。地域より職場の人間関係を優先させなければならぬ立場がうかがえる。

「いる」と答えた人の中では、既婚者に比べ、未婚者の数値がかなり下がる。既婚者でも、子どもがある人の80.8%に比べ子どもなしは48.3%と大きく下回る。ここでも地域の人間関係



■ いる  
■ いない  
■ 無回答



係における子どもの役割の大きさが浮き彫りになった。「いない」という回答者で注目すべきは、前問Q6で「地域でボランティアやサークルに参加したい」と答えた人が42.5%と全体をかなり下回ることだ。また、はつきり「参加したくない」と答えた40人のうち「いない」と答えたのは26人を占める。少数ではあるが、地域との関わりを避ける傾向も存在することを示しているように気になることだ。

お母さんは相談できる人を持っている  
若い独身女性は地域の中でちょっと孤独

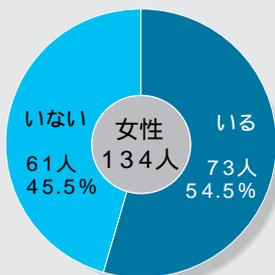
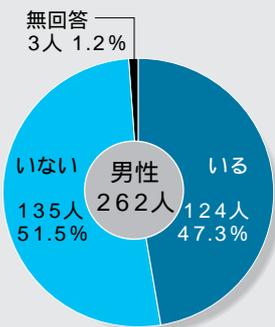
Question

8 家族以外で地域に相談できる人がいますか？

「地域に相談ことができる人がいる」と答えた人は49.7%。女性が男性をかなり上回った。

世代別の結果で興味深いのは男女それぞれ30歳代、40歳代の違いだ。女性がそれぞれ64.7%、61.7%と高い数値なのに対し、男性は37.5%、40.3%と全体を大きく下回る。「子育て・教育」という大きなテーマを抱えた世代だけに、その中で悩み奮闘する女性と、仕事との板ばさみで余裕のない男性の姿が想像できる結果だ。

「ここでも既婚者53.9%と未婚者(37.8%)の違いが顕著になったが、既婚者でも子どものない場合は39.0%と大きく数値が下がる。未婚者は20〜30歳代が68.9%を占めるが、「既婚・子どもなし」と答えた人は必



ずしも若い世代に限らず、各世代に平均している。Q7の結果も合わせ、既婚者であっても子どものない場合、地域での立場は若い未婚者とあまり変わらないようだ。  
10〜20歳代の若い女性の数値が35.2%と低いのも気になるところだ。

近くて遠いお隣さん  
若い独身男性はご近所情報に疎い？

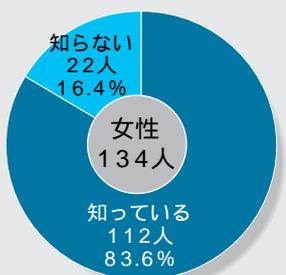
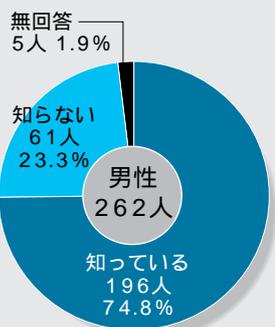
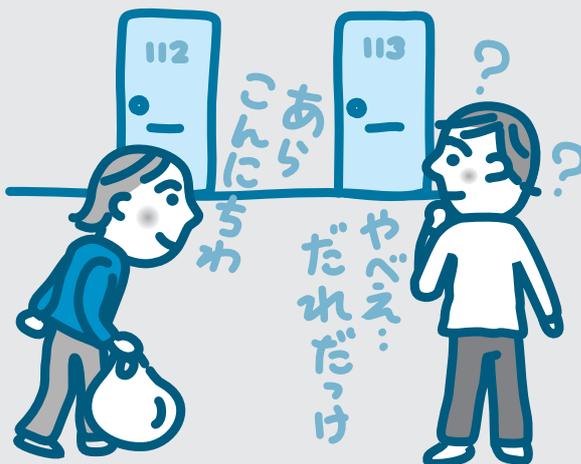
Question

9 お隣の家族構成を知っていますか？

「知っている」は77.8%とかなり高い数値だった。男女別ではやはり女性が上回った。

世代別では男性が10〜20歳代の52.7%から年代が上がることに10%単位で順に上がっていくのに対し、女性は10〜20歳代の64.7%を除くと各世代一様に極めて高い。特に30〜50歳代は93.3%が知っている」と答えた。

既婚者の84.9%が知っている」と答えており、これまでの設問にみられた子どもの有無による大きな差はなかった。隣近所の基本的な情報はおおむね把握されていることがわかる。  
ただし、未婚者、特に男性は20歳代で44.6%、30歳代は33.3%と3人に1人しか隣の家の家族構成を知らなかった。女性の場合は両世代とも70%前



後が「知っている」と答えており、若い未婚男性が「住まいをどう位置付けているのか、その一端がつかえる。ちなみに、「知っている」と答えた人の56.4%がQ6で「地域でボランティアやサークルに参加したい」と答えており、「知らない」では46.9%だった。



「よく話をする」と回答したのは男性37.4%、女性44.7%。Q9に比べ大分少ない。基本的な情報は知っているが日常の接点はあまり多くないということか。世代別に見ると60歳以上が60.0%と唯一高くなっている。これは、「よく話をする」と回答した60歳以上の人のうち「無職」と回答した人が44人おり、近所と接点を持つ機会が多いことも影響している。年代が若いほど数値が低くなるがQ9同様男性の30歳代が12.5%と極端に低くなっている。この世代の男性の地域との接点の少なさは気になるところだ。

既婚者は全体で47.7%がよく話をする」と回答したが子どももありの51.9%に対し、やはり子どもなしは32.8%と低かった。

未婚者と既婚者の間でも大きな差が生じた。男女合わせて103人の未婚

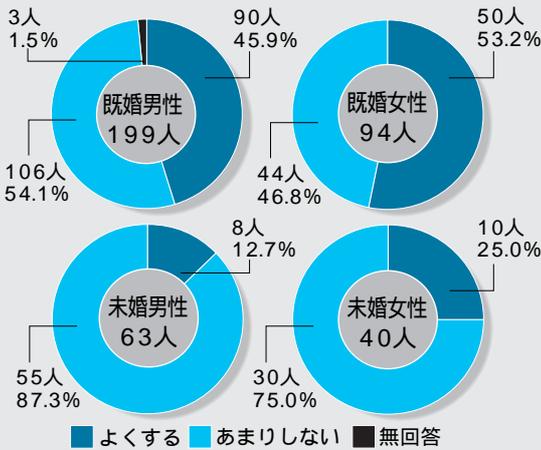
Question

10 「近所の方とはよく会話をしますか？」

若い独身者は「近所とのつき合いが苦手?」でも関心がないわけではない

者のうち、「よく話をする」と答えたのはわずか18人だった。特に男性の30歳代と女性の20歳代がともに0人という結果だった。

今回のアンケートに協力してくれた人のうち、10〜30歳代の未婚者は396人中74人で18.6%を占めている。各設問を通してこの人たちと地域との接点の少なさが浮き彫りになった。ただし、Q6ではこの人たちのうち43.6%が「地域でボランティアやサークルに参加したい」と答えており、地域とのかかわりを否定する姿勢は浮かんてこない。今後、若い未婚者が地域の中でその存在をどう示しているか、大きな課題といえそうだ。



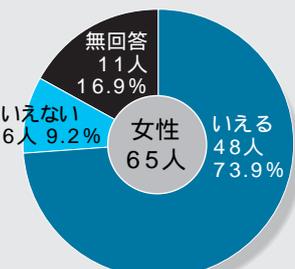
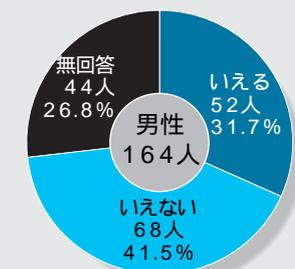
Question

11 お子さんの友だちを5人以上言えますか？」

子どもたちの行動は気になるでも深く関れずもどかしい思いのお父さんたち

既婚者のうち、子どものある人29人に答えてもらった。「言える」と回答したのは男性31.7%、女性73.9%で圧倒的に女性が多い。男性の数値は「意外に知っている」と言えるのか、これしか知らないのか微妙なところ。女性の数値は予想を上回って多い。逆に言えばお母さんが名前を覚えているほどの友だちを持つている子どもが多いとも言えるのでは。

世代別(20歳代以下はなし)には興味深い傾向が見えた。これまで多くの設問でトップを引つ張ってきた60歳以上が男性16.2%、女性26.6%と平均値を引き下げる立場に変わる。子どももの行動半径が広がり把握できないのか、成人した子どもを認め必要以上にかかわらないのか、とにかく意外な結果



だった。男性が目立ったのは40歳代。68.7%と男性の中では突出して高い数値だった。そろそろ思春期を迎える子どもを抱えるこの世代。子どもたちの交友関係が気になって、関心を持たざるを得ない父親像が浮かんでくる。女性の40歳代が88.8%と最も高いのも、同様の理由か。



公園や学校の場所はお父さんに聞こう  
意外に地域に詳しい男性たち

Question

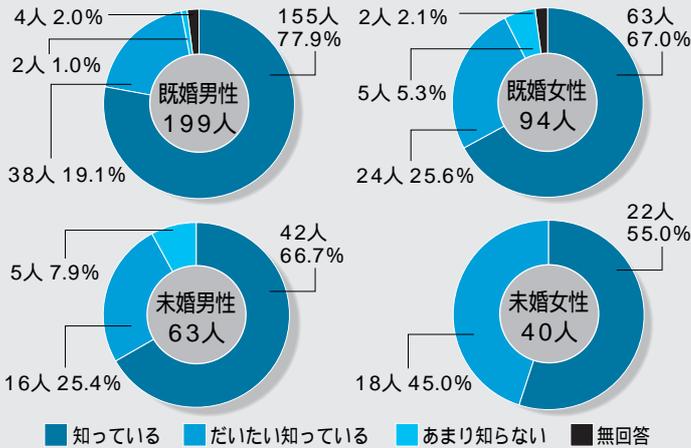
12 地域の公共施設  
(学校、消防署、警察署、公園)  
などの場所を知っていますか？

「防災」が社会的テーマとなっている  
今日だけに、この設問の結果には注目  
したい。

「知っている」と答えた人が71.2%  
地域の公共施設の認識度は高かった  
が、男性が女性を大きく上回るという  
意外な結果だった。特に既婚男性は4  
人に3人以上が「知っている」と答え  
た。一般的に女性に比べ地域や家庭へ  
の関わりが薄いと思われがちだが、「で  
きることはやる」という男性の姿勢と  
女性との役割分担のようなものが見え  
てくる。特に、30歳代の既婚男性が  
76.6%と60歳以上の87.0%について  
高い。他の設問では地域や家庭との接  
点が少ない世代という結果だったが、

必ずしも「関心が薄い」という結論に  
はつながらないことを示している。

子どもがない分、未婚者の数値が既  
婚者を下回るのは想定されたが、その  
差は意外に少ない。特に未婚男性の数値  
からは、必要なことは自分でしなくては  
ならないとはいえ、地域の中でしっかり  
生活している姿が浮かんでくる。



地域でのおつきあいは必要だと感じている  
でも、どうすれば？

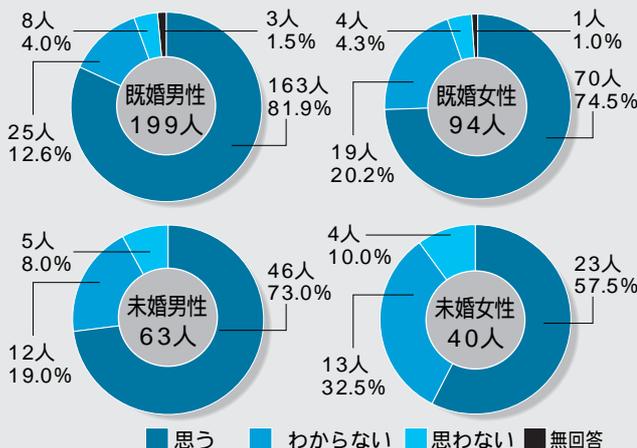
Question

13 地域での交流やおつきあいを  
必要としますか？



「必要だと思う」が76.3%とかなり高  
い数値となった。はつきり「必要ない」  
と答えた人はわずか5.3%だった。男  
性が79.7%と女性の69.9%を大きく  
上回ったが、これまでの設問では地域  
に対する高い関心を示してきた50歳代  
の男性が、63.3%と男性の中では最も  
低い。Q6で「これからの参加したい」  
ティア、サークルなどに「参加したい」  
と答えた人は66.6%と高い数値だった  
だけに気になるところだ。地域との日  
常的なかわりと特別な活動参加とは  
別だ、という意識の現れだろうか。

一方20歳代の未婚女性は「必要だ  
と思う」が50.0%に止まった。各設問  
をおとして若い未婚女性がその意識に  
おいても「最も地域と遠い存在」であ  
ることが浮き彫りになった。



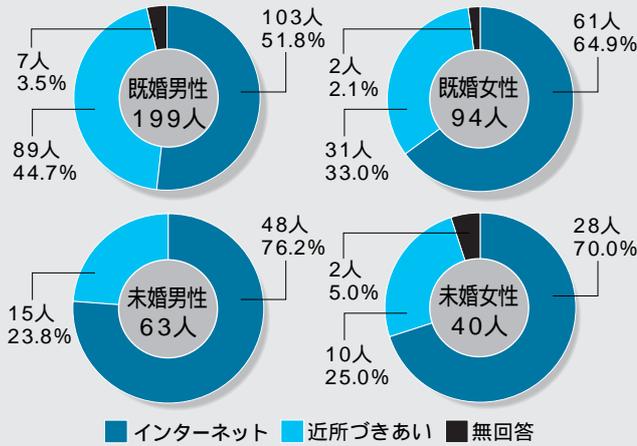


驚くべきことに「インターネット派」が60.6%と多い。インターネットを使った調査であり回答者全員がインターネットを使えるということ差し引いても少し意外な結果だ。女性の66.4%が男性の57.6%を上回った。既婚男性の数値が低いのは、50歳代、60歳以上が46.3%と低いため、他の世代は女性と変わらない結果だった。女性には世代間の差がなく、特に60歳以上の女性は72.7%と20歳代女性の76.4%について高かった。こうして見ると、年令が高いほどICTが苦手、というのは、男性だけに適用される定説のようだ。既婚女性の数値が高いのは、ネットショッピングなどで日常的にインターネットに親しんでいることもあるかもしれない。いずれにしても、「ここまでの設問で

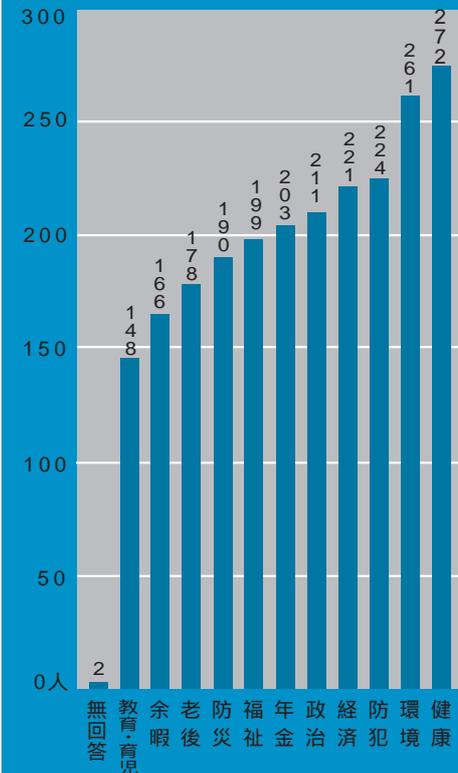
Question

14 インターネットと近所づきあいのどちらが好きですか？

近所づきあいよりインターネットが好き！  
でも、50歳以上のお父さんはちょっと苦手



「地域をかなり大切に思っている」という傾向が見えていただけはこの設問の結果は注目し値する。インターネットは今、猛烈な勢いで普及の過程にあり、当然人々の関心が高いことも要因のひとつだ。しかし、人々が直接接し合う既成のコミュニティよりも、インターネットによるコミュニティにより魅力を感じ、これが常態となる可能性もある。推移を見守りたい。



その他少数意見  
・歴史 ・文化  
・就業 ・芸術 等

396人の回答を元に、横浜市民の街や地域へのかかわり方、その現状や意識を見てきたが、14の設問によって得られた結果は非常に興味深いものであった。  
個々にはその人なりの不満を抱えながらも、横浜の街が持つイメージや歴史、風土を愛し、横浜市民としての自負や誇りを感じている市民像が浮かび上がってきた。  
地域との関わりにおいては、予想以上に関心が高いことも明らかになった。特に、地域との関わりの薄さを指摘されてきた男性において、「地域への回帰」ともいえる傾向が見られたのは収穫であった。  
しかし、いくつかの設問の結果に見られたように、各世代が抱えている状況によって、それぞれの意識に隔たりがあることも事実だ。  
若い未婚者は、他に比べ地域との

接点は確かに少ない。しかし、意識の上では彼らは思いのほか自分の住む地域との関係に関心を持っている。一部でいわれるような「地域否定」のような傾向は見られなかった。むしろ、数の上でも大きな比重を持つ彼らの若いエネルギーを、どう取り込み活用していくのか、地域の側が考えるべき課題の方が見えてきたように思える。  
また、既存のコミュニティとインターネットによる新たなコミュニティとがどう共存して行くのか、という課題も浮き彫りになった。  
最後に、今回協力していただいた396人の方の、今、最も関心のあること(複数回答)をご紹介します。  
1位の「健康」以外は上位を社会的・時代的なテーマが占めており、老後「や」余暇」など自分自身のことや下位にあるのが興味深い。